

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	パラドックス・パール	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：パラドックス・レッドパール

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

番

5

4in/1/2 MB

比較対照ボール：パラドックス・パール

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

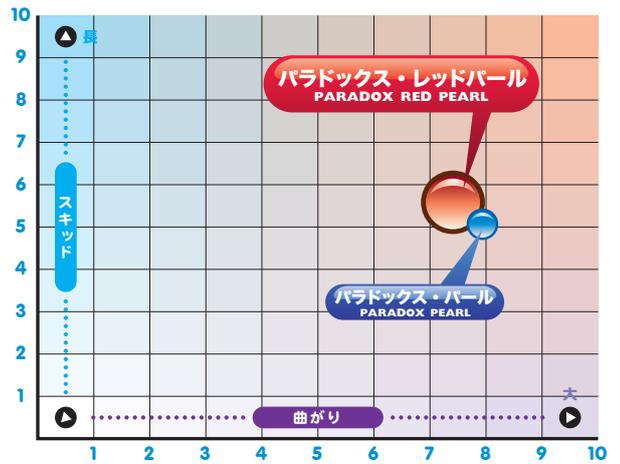
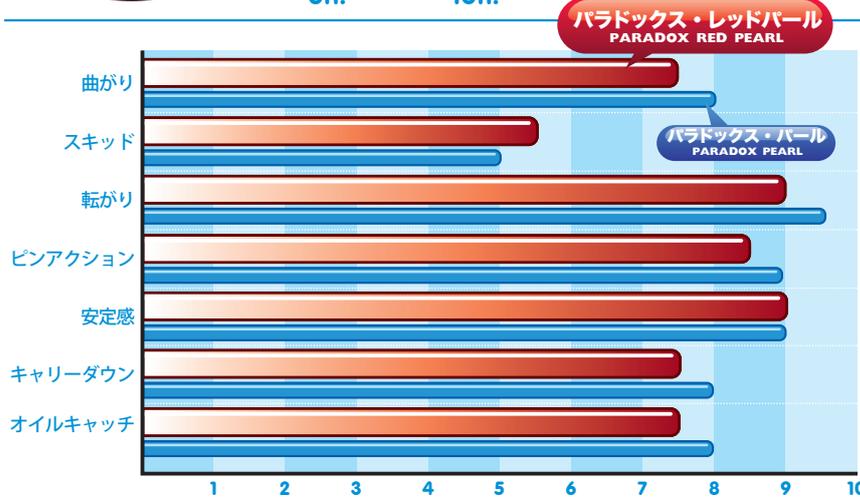
番

5

4in/1/2 MB



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション	Light Oil	Light to Medium	Medium Oil	Medium to Heavy	Heavy Oil	バックエンドリアクション	Smooth	Smooth to Arc	Arc	Arc to Sharp	Sharp Angle	レンジス	Early Roll	Early to Med	Med-Lane	Med to Late	Late Roll
------------	-----------	-----------------	------------	-----------------	-----------	--------------	--------	---------------	-----	--------------	-------------	------	------------	--------------	----------	-------------	-----------

ボールの評価

PARADOXといえば、曲がり始めからピンヒットまで継続的な強い曲りという印象があります。今回リリースするPARADOX RED PEARLは日本人が求める”走り”と”キレ””曲り続ける強さ”を極限まで引き出した、ABS完全監修の日本限定モデルです。PARADOXの独自のCoverstockは柔軟性が高く、レーンキャッチに優れていることは周知の通りでしょう。今回のキーポイントは、開発コンセプトの”走り”と”キレ”をPARADOXで求めたとき、柔軟性が高いCoverstock特性を活かしながら同時にスキッドを出し、backendでしっかりと動きを出さなければならないことでした。そこから日本限定の特殊添加物のExtraパールを混入する事で今までにないキレ味と走り、爽快感を出す事が出来ました。

第一印象は”かなり手前から転がるイメージ”と”爽快感がある走り”の2極を兼ね備えているイメージでした。私の場合初代PARADOXで手前から動きが強く出過ぎた場合や強めの入射角が欲しい時はPARADOX PEARLを使用しますが、その領域を越えてコンディションが遅く感じてしまうと急激にキャッチが先行してしまい、先での動きも悪く感じてしまいます。そういう時にこのRED PEARLはまだまだ直進力を感じます。直進力を感じても先で動く印象が強くて出ているので、外目に向けてもしっかり向いてきて入射角が取るのが難しくありません。私はPARADOX RED PEARLを凄く気に入っていますが、それは初代PARADOXからPARADOX PEARL、PARADOX RED PEARLまで良い転がりのイメージは変わらずしっかりと性能領域が分けられシリーズの中でアジャストできるため悩まなくて済むことでしょう。それも高品質の中でのレパートリーが組めるわけですから心配はなくなります。

特記事項

今度のPARADOXは日本限定の特殊添加物を加えたRED PEARL。PARADOXシリーズで最もスキッドし、最も先での動きが協調されたスペックです。